

祭祀とは

沖ノ島とその関連する神社は、古代の神道に属しています。神道は日本固有のもので、自然に宿ると信じられている神々の崇拝を中心に展開しました。初期の日本人は、巨木や巨石などの自然物を神々の宿る場所として認識していました。これらのものを神聖なものとして示すために注連縄が用いられました。後期には、周囲に神社が建てられることもあり、参拝者がそこで祈ったり、お供えをしたりしました。

聖なる島

山全体や、沖ノ島のような極めて美しい島全体までもが神聖視されることは珍しくありませんでした。4世紀から9世紀の間の沖ノ島への訪問者が、海を渡る際の加護と旅の成功への感謝として、神々に祈りや貴重な製品を捧げたことを研究者たちが突き止めました。沖ノ島では約8万点の品々が発見されています。やがて、島での儀式は女神・田心姫神を含むように進化しました。

清めの儀式

神道では身体・精神・心の清らかさが重要であり、水や塩がお清めのために広く使用されています。参拝者は儀式に従って手や口を洗い自らを清めます。入島を許可された数少ない訪問者はそのほとんどが宗像大社の神職ですが、彼らは島を訪れる前に、海で全身を清めなければなりません。沖ノ島は一握りの個人を除いて立ち入り禁止ですが、一般の人々は、九州本島にある辺津宮の第二宮と大島の沖津宮遥拝所から沖ノ島の神を崇めることができます。